

令和6年度第8回「知事と一緒に生き活きトーク」発言概要

教育庁高校教育課

- 1 テーマ:グローバル人材の育成
- 2 日 時:令和7年1月30日(木) 15:00~16:20
- 3 場 所:岡山国際交流センター 5階会議室(岡山市北区奉還町2-2-1)
- 4 参加者:高校生、大学生、大学職員、オンライン国際交流コーディネーター:6名
- 5 知事挨拶

若いうちに広く世の中を見ておいた方がいいと思っている。もっと当たり前のように英語を使い、外の世界を見に行けるようにしたいと思っているが、どのようなサポートが必要か、皆さんの意見を教えてほしい。

6 発言内容等

【自己紹介及び取り組んでいること、目指す将来像など】

- ・英語スピーチコンテストで全国大会に出場することになった。スピーチコンテストでは昨年の夏にベトナムに行った経験を基に、リアルな体験の重要性をスピーチした。来年の3月にオーストラリアに短期留学に行く予定である。
- ・高校で生徒会長を務めている他、県教委の岡山夢育推進委員会で活動しており、県内の様々なグローバル関連のイベントに参加している。自らがグローバル人材となり、周りにもっとグローバルが身近ことだと伝えられるようになりたい。
- ・一昨年、10 か月アメリカのテキサス州に留学したが、あらためて岡山の良さを実感した。将来は岡山に貢献したい。英語以外の様々な言語を学習し、大学では1年間ヨーロッパに留学したいと思っている。
- ・大学の留学生が半数以上在籍する学部で国際法を学んでいる。大学1年生の時にイギリスに留学し、その後は大学生の留学を支援する活動を行っており、大学3年生で One Young World グローバルサミットにも出場した。将来、地域の若者の芽を育てるような活動に携わりたい。
- ・大学でグローバルアドミニストレーターとして勤務している。高校生の時に1年間アメリカに留学し、アメリカの大学に進学した。ベトナムにも4年間駐在した。
- ・オンライン国際交流コーディネーターとして、県立高校生と海外をオンラインで結ぶ支援を行っている。

【留学をためらう理由、留学を増やすためのアイデアなど】

- ・高校生での長期留学は、帰国後1学年下になるため、大学受験を考えるとネックになる。そのため、長期留学は大学で行きたいと思っている。
- ・自分の留学体験をSNSに投稿したことで友人が留学を決めた。身近に体験者がいることは大きいと思う。
- ・小中学生のうちに高校での留学を選択肢として示すことが重要だと思う。
- ・金銭的な問題が一番大きい。奨学金制度などの周知も課題。今は留学先が多角化（アジア圏なども増えている）しているのでメリットだと思う。
- ・理系学生は必修講義が多いため、交換留学などがあればいいと思う。
- ・日本と海外のアカデミックイヤー（アメリカは9月入学）の違いが大きい

い。就活の時期を考慮して諦める学生も多い。

- ・若い頃の留学が人生に与える良い影響を、いかに若者に理解してもらうかが大事。
- ・高校で行く留学では、英語が苦手でも楽しめる。小中学生がそうした話を聞く機会を増やせば興味を持つ子が増えると思う。
- ・小中学校の総合学習で地域だけでなく国際的なことを学ぶのもよいと思う。
- ・中学生の時のイングリッシュサマーキャンプで2日間ずっと英語で喋ったのが良い経験になった。中学生が英語に触れる機会が増えればよいと思う。
- ・国内進学が既定路線になっていて、留学や海外進学の選択肢に気づけない子どもも多い。学校の先生からの声かけも重要だ。
- ・グローバル人材の育成には、英語力や海外経験だけでなく、海外でいかにして他者とコミュニケーションをとるか、他者理解を進めるかという点も含めて教育する必要があると思う。

【知事発言】

- ・私が海外留学した30年前は日本人留学生も多かった。現在は日本人留学生が減少傾向にあるものの、個人にとっての留学の価値は上がっている。
- ・留学の成功体験を広めることが大事で、体験者へのインタビューなどがたくさん集まればよいと思う。
- ・高校での留学が海外の大学に進学するという選択肢が生まれ、さらにその先に選択肢が広がる。
- ・適切な情報提供が、より多くの若者が海外での経験を積むきっかけになると信じている。